



早稲田大学のeラーニング

早稲田大学人間科学部eスクール
早稲田大学遠隔教育センター



eラーニングとは

- ❖ 情報通信技術(ICT)を用いた学習のこと。
- ❖ 主にはLMS(Learning Management System)を利用し、インターネットを経由して実施される。
- ❖ 早稲田大学においては大学設置基準第25条第2項に従い、下記の3点を満たせばeラーニングであっても授業として認めている。
 - ◆ 担当教員から学生に教材や議題の提示がある。
⇒ 講義映像や資料といった教材を授業コンテンツとしてLMSから配信。
 - ◆ 学生からの課題提出の機会、および提出課題に対する担当教員からのフィードバックがある。
⇒ LMSの小テスト・レポート機能を利用。
 - ◆ 学生の意見交換や質問の機会が確保されている
⇒ LMSのディスカッション(BBS)機能を利用。



eラーニングとは

◆ オンデマンド授業（早稲田大学では2001年度より導入）

授業コンテンツとして、予め制作した講義映像を配信する
eラーニング形式で教室授業の一部または全てを代替する授業



- ◆ LMSを通じてのみ視聴可能とし、授業の履修者のみが受講期間中にのみ、いつでも、どこでも、何度でも受講可能
- ◆ LMSの機能を通じ、教員と学生との双方向性を担保
- ◆ コンテンツはストリーミング配信の上、DRM(Digital Rights Management)を施し、複製やダウンロードを防止
- ◆ コンテンツ上の著作物は、すべて許諾を得た上で利用

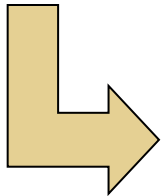


学生が学びやすいeラーニングとは

eラーニングの受講イメージ（学習履歴の管理方法）

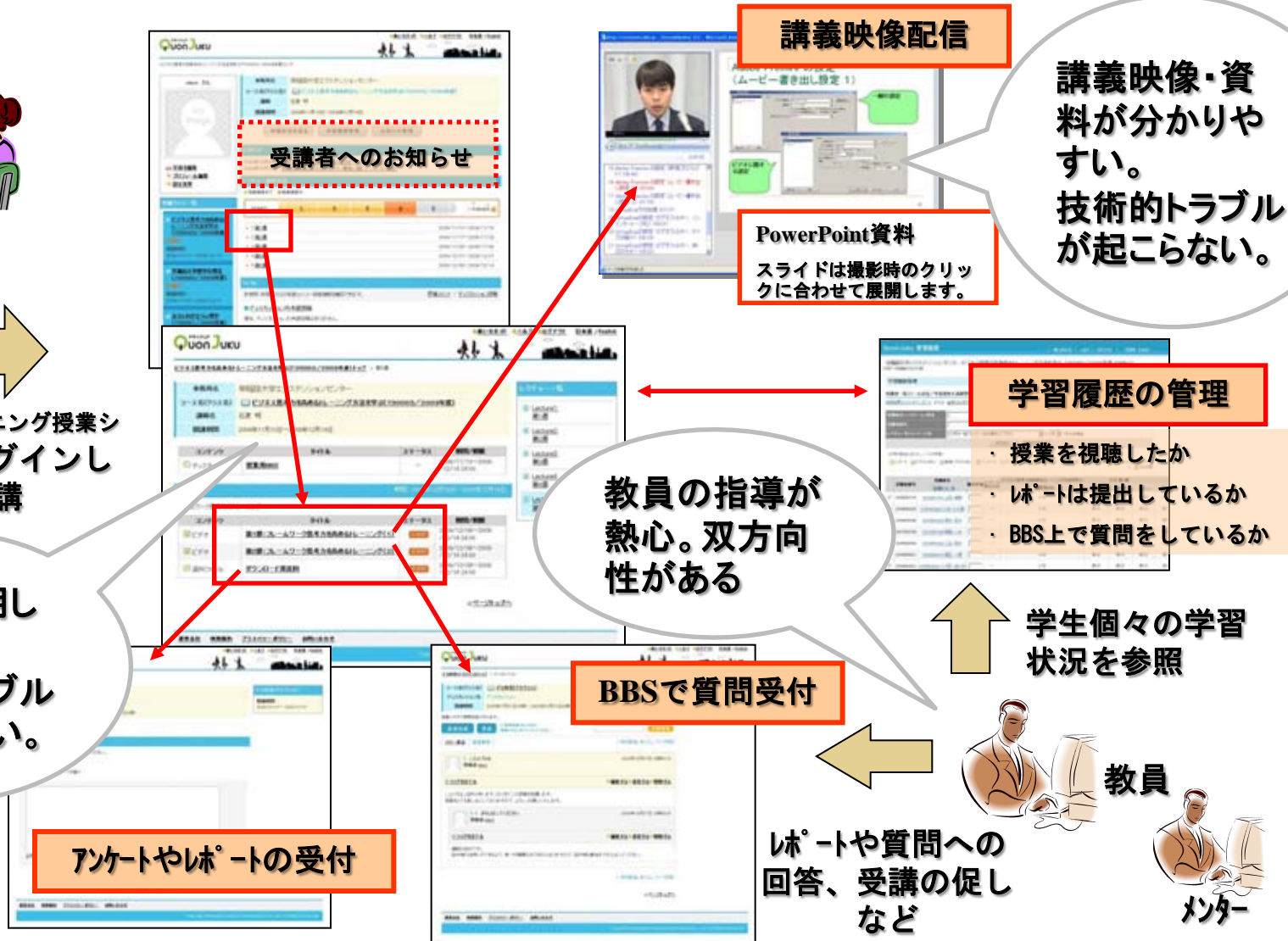


学生



LMS（eラーニング授業システム）にログインして授業を受講

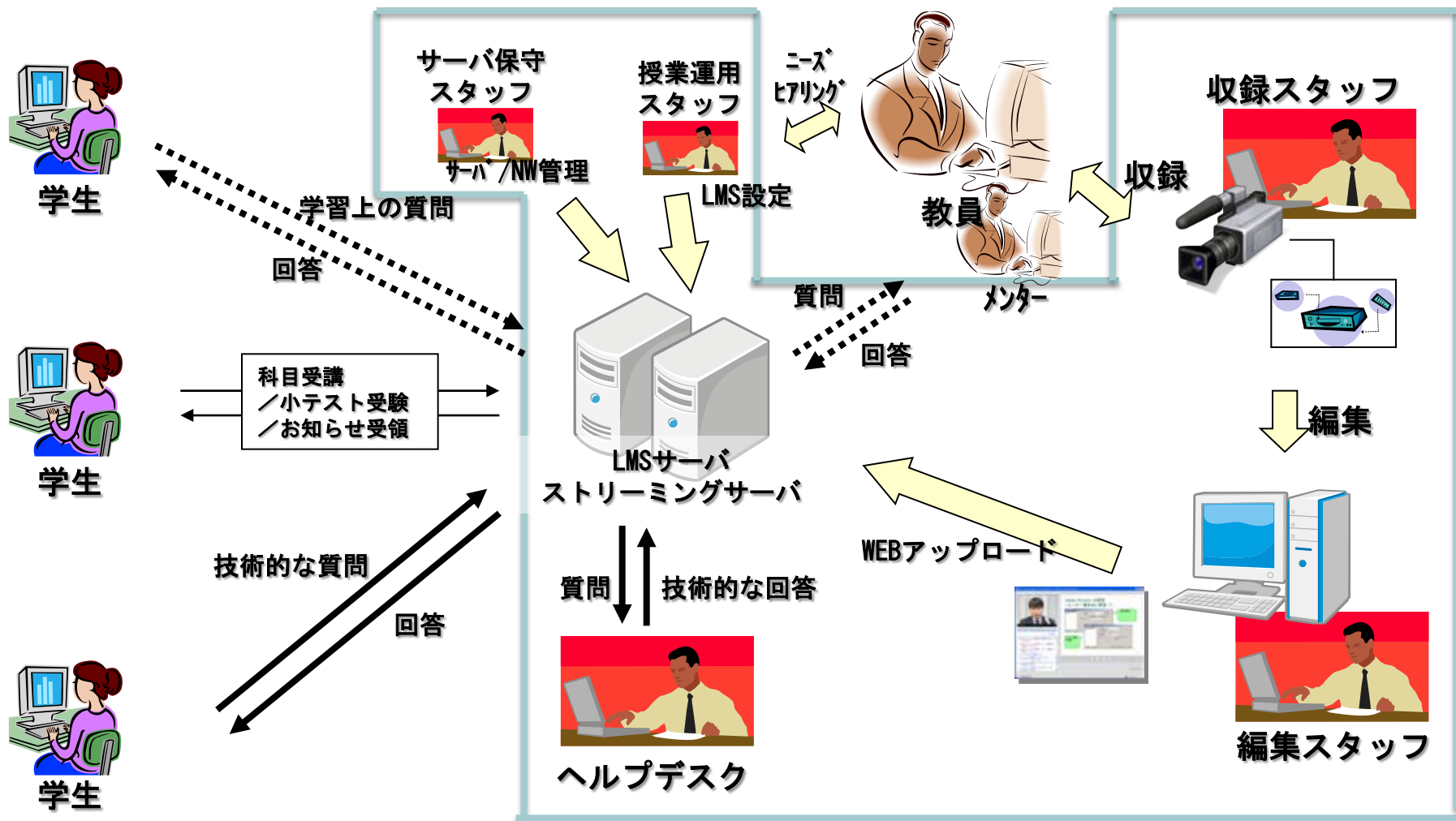
LMSが利用しやすい。
技術的トラブルが起らない。





学生が学びやすいeラーニングとは

eラーニングの運営イメージ（コンテンツ配信システム）



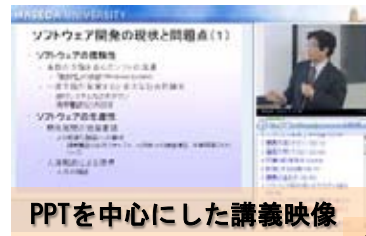


学生が学びやすいeラーニングとは

- **学生が学びやすいeラーニングとは**
- 早稲田大学でのオンデマンド授業運営を通じた経験から。

- ◆ **授業コンテンツが分かりやすいか**

- ❖ 授業担当教員との綿密なヒアリング・相談を経て制作
- ❖ 授業内容に最も適した形のコンテンツ形態を選択



PPTを中心にした講義映像



教室授業を収録した講義映像

- ◆ **技術サポートが整っているか**

- ❖ PC環境による試聴トラブルは少なからず発生する
- ❖ 試聴トラブルの少ないシステムを構築できるか、トラブルが起こった際のサポート体制を万全にできるか



黒板を中心にした講義映像



対談形式による講義映像

- ◆ **教員からのフィードバックが充実している等、学生の受講モチベーションが維持されるような工夫がされているか**

- ❖ 通常顔の見えないeラーニングで、いかにコミュニケーションを図り、受講モチベーションを保つかが鍵。
- ❖ LMSの各種交流用の機能を有効活用、電子ファイル上でのコメントなどを利用



LMSのレビューシートを用いたフィードバック



MS Wordのコメント機能でレポートへフィードバック



早稲田大学人間科学部eスクールについて

早稲田大学人間科学部eスクールとは

- ❖ 2003年4月に開設
- ❖ スクーリングを除くほとんどの科目をeラーニングで実施。
- ❖ 人間環境科学科、健康福祉科学科、人間情報科学科の3学科
- ❖ 通学制同様のカリキュラム。卒業時の学位は学士(人間科学)
- ❖ 設置科目数は約400科目(講義科目、演習、卒業研究)
- ❖ 学生数 約800名(2011年5月現在)
- ❖ 教員数86名、教育コーチ約160名
- ❖ 2007年3月に初めての卒業生。
- ❖ 2011年9月までに、
472名が卒業
- ❖ 2011年までに152名の
看護師・准看護師が入学
(2003~2011年全入学者
の9.3%)



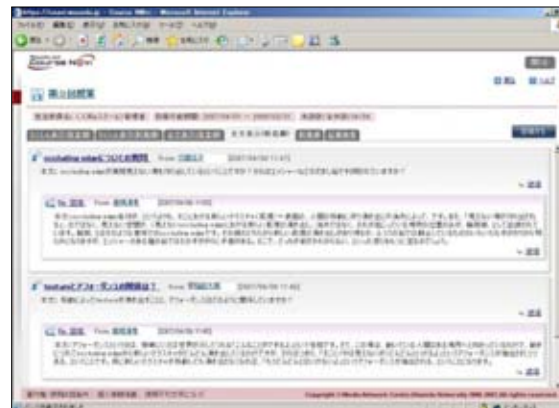


eスクールの授業の流れ

eスクールの授業の流れ



講義の受講



電子掲示板での質問・議論

- ❖ 半期15回(春、秋学期)
- ❖ 1週間ごとに進行(月～日曜)
- ❖ 1科目原則2単位
- ❖ 何度でも繰り返し視聴可能
- ❖ 見逃した場合でもバックナンバーとして視聴可能



レポートの提出



eラーニングを用いた授業のメリット

- 質問: オンデマンド授業についてどのような点がよかったと思いますか? (通学制、複数回答可)
- | | |
|--------------------------|-----|
| いつでも、どこからでも受講できる | 75% |
| 講義を繰り返して何度でも受講できる | 63% |
| 講義(教材)がわかりやすい | 17% |
| BBSによって、質問や意見交換ができる | 8% |
| 講義内容への興味・受講のモチベーションが高くなる | 7% |
| 課題やレポートをオンライン提出できる | 31% |
| その他 | 0% |



eラーニングを用いた授業のデメリット

❁ 質問：オンデマンド授業についてどのような点が不便だと思えますか？（通学制、複数回答可）

- | | |
|------------------------------|-----|
| ❁ PCを利用しないと受講できない | 40% |
| ❁ 講義コンテンツが見つらい・操作が面倒 | 24% |
| ❁ 講義コンテンツの内容がわかりづらい | 45% |
| ❁ 質問や意見交換の場が少ない | 19% |
| ❁ 講義内容への興味・受講のモチベーションが維持しづらい | 31% |
| ❁ 課題やレポートに取り組みにくい | 10% |
| ❁ その他 | 14% |



学習の質を高めるための支援の方法

❁ 教育コーチによる学生支援

- ❁ 教員とともに学生を指導
- ❁ 原則として修士以上の学位を持つ専門家
- ❁ 専門科目、演習、卒業研究、
ホームルーム科目において
学生をサポート
- ❁ 授業準備、コンテンツチェック
- ❁ BBSやメールでの質疑応答
- ❁ 履修状況の確認
- ❁ 資料郵送
- ❁ スクーリング準備、授業補助
- ❁ 小テスト、レポート等の設定
- ❁ 採点補助





学習の質を高めるための支援の方法

● LMSの活用(Course N@vi)

◆ 理解度確認のための

小テスト実施

- 穴埋め式、単一選択式、複数選択式、自由記述式

小テスト画面



◆ レビューシート機能による一対一のフィードバック

レビューシート画面





学生の満足度

2011年春学期実施学生アンケート結果より(eスクール)

	7段階評定
❖ 知的関心を深めましたか？	5.85
❖ 自分の将来に役立ちそうですか？	5.95
❖ 学習への意欲が高まりましたか？	5.85
❖ 満足しましたか？	5.72



運営上の課題

● 運営上の課題

◆ 視聴環境の徹底

→ eスクールはRealplayerのインストールが必須

◆ 履修者からの問合せへの対応

→ ヘルプデスク、24時間365日メール受付

◆ 文字によるコミュニケーションの困難

→ 相手に誤解されない工夫が必要

◆ 公平なサービスの提供

→ 大学図書館で本を借りることは遠隔地の学生には困難

◆ 教育コーチの確保

→ 適材がなかなか見つからない



ご清聴ありがとうございました